

議事速報

平成22年1月25日（月）

衆議院本会議

午後六時三十三分開議

○議長(横路孝弘君) これより会議を開きます。

裁判官訴追委員辞職の件

○議長(横路孝弘君) お諮りいたします。

裁判官訴追委員鳩山邦夫君から、訴追委員を辞職いたしたいとの申し出があります。右申し出を許可するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(横路孝弘君) 御異議なしと認めます。

よって、許可することに決まりました。

裁判官訴追委員の選挙

○議長(横路孝弘君) つきましては、裁判官訴追委員の選挙を行います。

○高山智司君 裁判官訴追委員の選挙は、その手続を省略して、議長において指名されることを望みます。

○議長(横路孝弘君) 高山智司君の動議に御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(横路孝弘君) 御異議なしと認めます。

よって、動議のとおり決まりました。

議長は、裁判官訴追委員に山口俊一君を指名いたします。

○高山智司君 議案上程に関する緊急動議を提出いたします。

平成二十一年度一般会計補正予算(第2号)、平成二十一年度特別会計補正予算(特第2号)、右両案を一括議題とし、委員長の報告を求め、その審議を進められることを望みます。

○議長(横路孝弘君) 高山智司君の動議に御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(横路孝弘君) 御異議なしと認めます。

平成二十一年度一般会計補正予算(第2号)

平成二十一年度特別会計補正予算(特第2号)

○議長(横路孝弘君) 平成二十一年度一般会計補正予算(第2号)、平成二十一年度特別会計補正予算(特第2号)、右両案を一括して議題といたします。

委員長の報告を求めます。予算委員長鹿野道彦君。

平成二十一年度一般会計補正予算(第2号)及び同報告書

平成二十一年度特別会計補正予算(特第2号)及び同報告書

〔本号末尾に掲載〕

〔鹿野道彦君登壇〕

○鹿野道彦君 ただいま議題となりました平成二十一年度一般会計補正予算(第2号)外一案につきまして、予算委員会における審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

この補正予算二案は、去る一月十八日本委員会に付託され、二十日菅財務大臣から提案理由の説明を聴取し、二十一日から質疑に入り、本日質疑を終局し、討論、採決を行ったものであります。まず、補正予算二案の概要について申し上げます。

この補正予算二案は、昨年十二月八日に決定された明日の安心と成長のための緊急経済対策を実施するために必要な措置等を講じようとするものであります。

一般会計予算については、歳出において、緊急経済対策費として七兆二千十三億円を計上するとともに、平成二十一年度第一次補正予算の執行の見直しによる執行停止額の減額等を行っております。

また、歳入においては、租税等の減収を見込むとともに、公債金の増額を行うこととしております。

この結果、補正後の平成二十一年度一般会計予算の総額は、第一次補正後予算に対し歳入歳出とも八百四十六億円増加して、百二兆五千五百八十

二億円となっております。

特別会計予算については、国債整理基金特別会計、労働保険特別会計など十四特別会計において、所要の補正を行うこととしております。

次に、質疑について申し上げます。

質疑は、財政・金融政策、経済・景気対策、外交政策、雇用対策、子育て支援、介護問題、政治資金問題等、国政の各般にわたって熱心に行われました。

かくして、本日質疑を終局し、補正予算二案を一括して討論に付しましたところ、民主党・無所属クラブを代表して三谷光男君から賛成の意見が、自由民主党・改革クラブを代表して谷畑孝君から反対の意見が、公明党を代表して大口善徳君から賛成の意見が、日本共産党を代表して笠井亮君から反対の意見が、社会民主党・市民連合を代表して阿部知子君から賛成の意見が、みんなの党を代表して柿澤未途君から賛成の意見が、それぞれ述べられました。討論終局後、採決の結果、平成二十一年度補正予算二案はいずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、御報告申し上げます。（拍手）

○議長（横路孝弘君） 両案につき討論の通告があります。順次これを許します。谷川弥一君。

（谷川弥一君登壇）

○谷川弥一君 私は、自由民主党・改革クラブを代表し、政府提出の平成二十一年度第二次補正予算案に対して反対の立場から討論を行います。（拍手）

本論に入る前に、皆様に二点お考えいただきたいと思えます。

一つ。人間の歴史には大きな二本の大河が流れている。それは、貧乏からの脱出と自由の獲得であります。

その点から見ると、日本が世界一であります。その礎になったのは特攻隊で突っ込んでいった先輩たちであることを考えていただきたい。それなのに、民主党の諸君、特に一期生の人たちに、衆議院議員としての自由があるのか、プライドがあるのか。選んでいただいた人々に申しわけないと思わないのか。きょうは細かい点に触れる時間はありません。次の予算委員会ですらやらせていただきます。

二つ。グローバルイズムが進展する中、徹底して生産性を上げた結果としての失業という課題であります。

アメリカ一〇％、EU諸国九・五％、日本五・二％前後の失業率。IT化、省力化で極限まで人手を減らすためです。この問題を解決するためには、心を耕す仕事をつくり出すしかありません。宗教心を持ち、哲学、芸術、伝統文化を生活に取り入れ、それぞれの民族がもう一度伝統文化の中で生活することです。これも、細部にわたって述べる時間がないので、次の委員会で論じたいと思えます。

秘書が在宅起訴や逮捕されると、あなたたちが野党のときは今の自民党の二倍くらい批判したのに、今は平然として開き直っている。こんな人たちを日本語では、品がなく、粗野と言う。

やじっている諸君よ、あなたたちは選挙で選ばれた特別の人たちであります。恥とか恥ずかしいとか、はしたないとかいう日本語を思い出してください。そして、民主党と自民党を比較して、どちらに浄化作用があるか、民主的か、品格があるか考えてください。

政治と金をめぐり、鳩山総理、小沢民主党幹事長には、政治資金にかかわる重大な疑惑があります。

鳩山総理については、自身の母親から毎月一千五百万円もの贈与を受け、その贈与税を払わず、脱税総理とまで言われています。その後、事実が明らかになってから、約六億円もの税金を納め、総理自身、みそぎは済んだとの認識を示していますが、国民の大多数は、説明責任を果たしていないと、納得しておりません。

鳩山総理が常日ごろ言っているように国民目線の政治を標榜するのであれば、言葉だけではなく、この母親から流れた資金の使途をみずから明らかにし、国民の不信感を払拭するよう強く求めます。一方、小沢幹事長に至っては、土地売買をめぐる不透明な金の流れに関連して、現職の民主党議員石川知裕君の逮捕、さらには自身の事情聴取という異常かつ異様な事態となり、実に国民の九割以上が疑惑解明と小沢幹事長自身の説明責任を求めています。

しかし、鳩山総理は、小沢幹事長に対し、闘ってくださいと、政府の最高責任者としては余りにも不用意かつ無責任、総理としての自覚が欠如した、検察批判とも受け取られる前代未聞の発言を

しています。

このように、鳩山政権と国民感覚とのずれは、今や日に日に大きくなるばかりであり、政治に対する信頼を大きく損ねる結果となっていることは、予算提出者としての資格たり得ないと思います。

以下、本論です。

本補正予算案については、多くの問題があります。

第一に、予算規模と効果についてです。

本補正予算案の編成時、その規模をめぐり連立与党内で議論があり、国民新党は十兆円超と主張されていたようですが、政治的な妥協として財政措置七兆二千億円という数字が出てきました。しかし、その根拠も不明確であり、さらに、足らざる分については、その数字に合わせるかのように、安易に公債の追加発行に踏み切り、選挙期間中に民主党が訴えてきたことと矛盾しています。

地方経済を初め我が国経済全体が、麻生政権の経済対策によりようやく回復軌道に乗りかけていたが、一転、鳩山不況は現実のものとなっていきます。

そもそも、前政権で実行途中にあった一次補正をなぜ執行停止にしたのか。この点についての説明は全く不十分です。特に、地方経済を支える公共事業について、地元との十分な調整もなく停止することによる影響、さらに、無駄な公共事業と必要な公共事業の区別など、我が党の疑問点について何ら答えていません。

さらに、無駄であるとの観点で予算の執行停止で浮いた二兆九千億円について、どのような予算

項目に振り向けたのか不明確です。執行停止をした項目とほぼ同様の項目を復活させていますが、予算規模を縮小した程度の項目の焼き直しにすぎず、こうした観点からも、補正予算編成そのものが無意味であったと言わざるを得ないのです。

経済効果の点でも、政府は効果があるとのことですが、政府みずから試算した本年一―三ヶ月の経済への影響は、実質GDP比マイナス〇・一％、約五千億円の名目GDPがマイナスとなっており、施策の効果のほとんどは、四月以降に出てくる、即効性に乏しいものばかりであります。タイミング的にも、経済対策をやる意味があるのか。

第二に、経済対策の内容についてです。

政府が決定した経済対策では、いわゆる三K、雇用、環境、景気としていますが、どの点で前政権の執行途中であった経済対策と中身が違うのか。雇用調整助成金の支給要件緩和、介護分野における雇用創造、エコポイントとエコカー補助、セーフティネット貸し付けなどです。素直に麻生政権の経済対策は間違っていないかつたとお認めになるべきではありませんか。

さらに、事業実施をおくれさせてまでも執行停止を行い、その結果として景気回復をおくらせる結果になったことに対し、少しの反省、弁明がないことも重大な欠陥です。さらに、わざわざ一部執行を停止した後に予算編成をした観点から、緊急性も見えてきません。このことは、これから来年度予算を審議する上でも明確にしていかなければならないと思います。

また、地方支援として三兆四千五百億円を計上していますが、そのうち二兆九千五百億円は地方交付税減少額の補てんであり、通常予定していたものです。地方支援という項目に入れること自体が問題です。

今求められているのは、経済成長や財政健全化を重視し、力強い景気回復につながる一貫性のある経済対策であります。その視点が全く見られない本補正予算案に、到底賛成することができません。

最後に、政治を行う大前提は、国民からの信頼であります。ところが、政府・与党は、信頼回復に努めるどころか、政治と金の集中審議に応じず、閣僚席からやじが飛び、傍聴議員たちは不規則発言を繰り返す始末。本予算審議を立法院にお願いしている政府、審議を進めたい与党とは到底思えない姿勢は、啞然とさせられます。

今の政府・民主党には、信頼もなければ品格もない、あるのは政治と金の疑惑ばかり。国民の政治に対する信頼回復のため、鳩山内閣総理大臣は即刻総辞職すべきであると強く申し上げ、反対討論いたします。（拍手）